

第Ⅲ章 都市空間デザイン指針

Ⅲ-2. 生活空間のデザイン指針

1. 生活空間の将来イメージ ----- 27
2. 基本的な考え方と空間イメージ ----- 28

対象地域は、熊本の玄関口としての都市イメージを特徴づける「3つの景」のほかの生活の基盤となる空間になります。この生活空間の将来イメージを示します。

熊本駅周辺地域の中には、「3つの景」のほかに、駅をはさんで東西に広がる生活空間があります。西側の生活空間は、土地区画整理事業により大きく変わります。

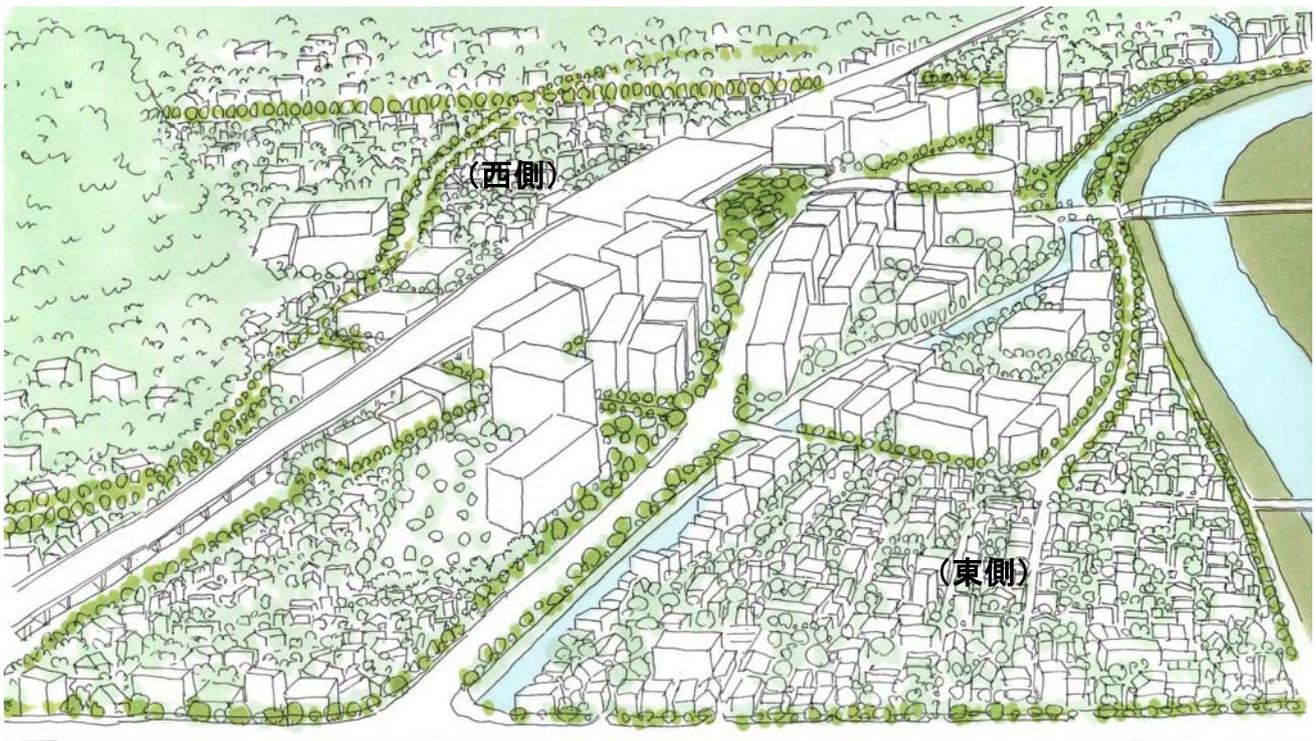
東側の生活空間は、個々の建物の更新等によって、既存の街並みがゆっくりと変わっていきます。

それぞれ異なる状況の中でまとまりの感じられるまちづくりの将来像を実現するためには、地域住民と行政が生活空間づくりの考え方を共有し、連携してつくりあげることが大切です。

本指針は、東西の生活空間を全体的に捉えて、下記に示す「生活空間の将来像」を実現するために大切にしたい基本的な考え方とイメージを示します。

生活空間の将来イメージ … 豊かな水と緑に満ちた、暮らしやすい生活空間

万日山や花岡山、白川や坪井川等に包まれる中に、緑のまとまりをもつ「3つの景」から周辺に緑と賑わいがにじみ出すように広がる、「豊かな水と緑に満ちた、暮らしやすい生活空間」。



〈 生活空間の将来イメージ 〉

〔駅の東側〕

「3つの景」を骨格として、駅に近い部分は高度利用が図られた建物が建ち並びます。

そのまわりは、地域コミュニティを育む生活空間が広がります。

〔駅の西側〕

主に生活利便施設や住居が建ち並び、新しい生活空間が広がります。

第一に大切にしたいまちづくりの考え方として、「緑」をベースにしたまちづくりの基本的な考え方と空間イメージを示します。

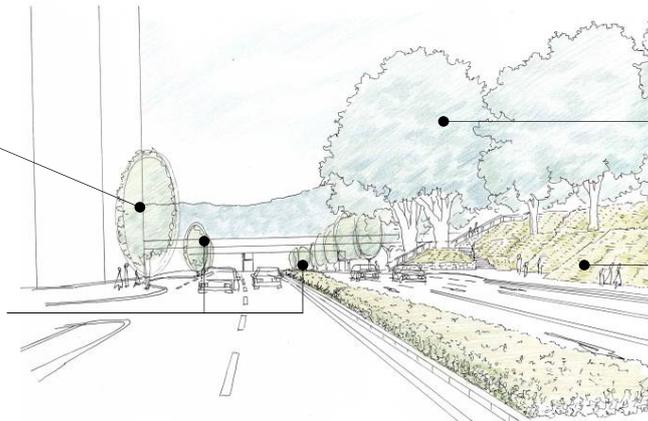
(1) 緑の考え方

基本的な考え方

地域の景観を象徴する既存の緑を活かす。
新たな緑によりまちなみ景観を演出する。
公共空間と民有空間の緑の連携を図り、生活空間の特徴を活かした景観を形成する。

道路沿道の環境保全
(大気汚染や騒音防止
など)に配慮した緑化
の推進

鉄道高架橋周辺の緑の
連続性、まとまり等により、
東西両地区の一体感を形成



地区を特徴付ける既存の大きな樹木を都市景観へ積極的に活用

緑と調和し、景観に配慮した斜面景観の形成

〈既存の緑を活かし、道路特性に配慮した景観イメージ〉
(春日池上線の場合)

街路樹の位置の工夫により
広がりある街路景観を演出



連続した高木植栽による道路軸の明確化

〈新たな緑によりまちなみ景観を演出するイメージ〉

公共空間の緑と民地内の緑が折り重なり、快適な生活環境を形成

敷地境界の緑化もにより、緑豊かなまちづくりを推進



周辺の山々の緑との調和や美しい街並みづくりに配慮した建物等の色彩・形態の採用

樹木や草花を配置して季節感漂う公共空間の整備

〈公共空間と民有空間での緑の連携イメージ〉

第二に大切にしたいまちづくりの考え方として、「沿道利用に応じた」まちづくりの基本的な考え方と空間イメージを示します。

(2) 沿道利用に応じたまちづくりの考え方

基本的な考え方 規模の大きな民間開発の沿道では、道路空間と一体的な賑わい空間を形成する
 小さな店舗が建ち並ぶ街区では、建物のしつらえを大切に空間を形成する
 住宅地では、暮らしやすい快適な住環境を形成する

木立が心地よい、快適な歩行空間の形成



歩道と沿道の民間敷地とが一体的でまとまりのある空間の形成

歩行者の安全性・利便性に配慮した道路の整備

ポケットパークやオープンカフェ等、にぎわいや安らぎを感じられる空間を演出

〈規模の大きな民間開発地の沿道のイメージ〉

歩道と敷地の段差を解消し、必要な通路幅を確保するなど誰もが移動しやすい施設の整備



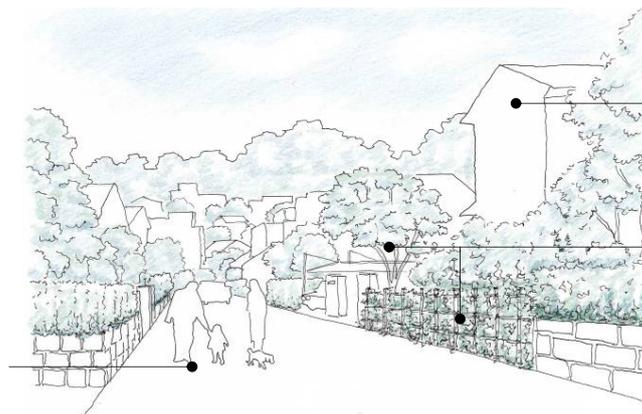
緑景観との調和や街並みとしての美しさに配慮した建物の色彩や形態、看板等の構造

足元周りのすっきりとした植栽と歩行者の安全性・利便性に配慮した道路の整備

建物内の華やかさや明りが道路から感じられ、眺めて楽しいにぎわいを演出

〈小さな店舗が建ち並ぶまちのイメージ〉

生活者が安全に利用できる道路の整備



街並みとの調和や隣接地どおしの生活環境にも配慮した建物や屋外施設の色彩や形態

歩行者や近隣に潤いや快適さを与え、住宅地としてもまとまりが感じられる緑豊かな生活空間

〈緑豊かな住宅地のイメージ〉

第三に大切にしたいまちづくりの考え方として、「地域資源を活かす」まちづくりの基本的な考え方と空間イメージを示します。

(3) 地域資源（歴史・生活文化の名残・樹木・水路等）を活かしたまちづくりの考え方

基本的な考え方

地域に育まれてきた地域資源や生活文化をまちづくりに活かし、まちの記憶を未来につなげる

うるおいを感じられる散策空間を形成

水路を囲む柵等を工夫し、美しい石組を積極的に表出



水路脇の樹木や草花をまちづくりの要素として大切に活用

既存の水路を大切に、水路沿いの敷地境界部を緑化により、潤いある水辺空間を形成

<まちなかの水路を活かしたまちづくりイメージ>

長く慣れ親しんだ場や樹木等を大切に、誰もが利用しやすい休憩や語らいの場として活用

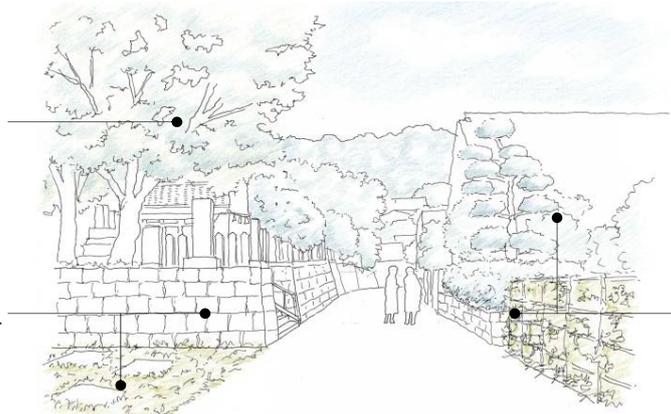


記念碑や石碑、地蔵堂に触れあいやすい空間づくり

<まちなかの記念碑や小公園を活かしたまちづくりイメージ>

鎮守の森の緑をまちづくり要素として活用

歴史を感じる石組や参道の敷石等を景観素材として活用



神社・仏閣の緑との調和に配慮した植栽計画

<地域の象徴となる神社・仏閣等を活かしたまちづくりイメージ>